

専門科目 看護の基本

科目名	1 年生、学士 16 回生 前期	必修	2単位
<u>看護学概論</u>	*菱沼 典子、佐居 由美、 大久保 暢子、伊東 美奈子、 担当教員 蜂ヶ崎 令子、大橋 久美子		
目的	看護学の導入科目として、看護とはなにか、看護職とはなにか、看護学とはなにかを学び、各自が本学で今後 4 年ないし 3 年かけて学ぶ看護学への取り組みの土台を形成する。		
目標	1) 古来、人々の営みの中でなされてきた看護が、看護学に発展した経緯を理解する。 2) 健康に関連した課題を持つ人々の体験と、そこに看護学がなし得る貢献を理解する。 3) 学生各自が看護を実践する際の思考の方向性を定める（その視点を得る）。 4) 自ら学ぶ方法を知り、今後の学修に活かすことができる。		
方法	講義の他、図書館を活用して調べる、本を読む、討議をする、わかりやすく伝える等、大学における自主的な学びの方法を用いる。		
内容	1) 大学における自主的な学び方のオリエンテーション 2) 看護学の発展過程と現状 3) 日本における看護学の発展と本学の役割 4) 健康に関連した課題を持つ人々はどうな思いを持つのか、医療・保健機関や医療保健職とどう付き合っているのか 5) 看護実践の成り立ち 6) 看護職はどうな思いを持って仕事をしているのか 7) 多角的な視点から看護事象へ問いを持つことの重要性		
評価方法	試験（記述）		
教科書	① ナイチンゲール, F. (1860).対訳看護覚え書. 小林章夫他訳(1998). うぶすな書院. ② ヘンダーソン, V. (1960). 看護の基本となるもの. 湯慎ます・小玉香津子訳 (2006). 日本看護協会出版会. ③ 聖路加看護大学大学史編纂・資料室委員会編(2010). 聖路加看護大学のあゆみ. 聖路加看護大学.		
参考書	① トメイ, A.M., アリグッド, M.R.(2002). 看護理論家とその業績. 都留伸子監訳 (2004). 医学書院. ② 菱沼典子、井上智子、武田利明編 (2009). 看護の原理—ケアすることの本質と魅力—. ライフサポート社. ③ 日本看護技術学会監修(2011). 看護技術の探求. 看護の科学社.		

(注) 日程は変更する場合がある。

	日 程	内 容		備 考
		テーマ	学生が学ぶこと	
1	4月12日(木)	本学の建学の精神と本教科の目的・目標	本学の建学の精神とカリキュラムのつながり、看護学導入科目の位置づけを理解する。	学生便覧教科書③
2	4月19日(木)	聖路加歴史探訪	築地明石町と聖路加の歴史を確認する 日本の看護・看護学教育のなかで、聖路加看護大学の位置づけ・意味を理解する。	グループワーク。雨天の場合は日程を変更教科書③

3	4月26日(木)	看護学の始まり	ナイチンゲール「看護覚え書」の意義と看護の理論化の歩みを理解する。	
4	5月10日(木)	医療機関を利用する人(含む家族)の思い	どんな時に保健室や病院を利用したか、その時どんなことを思ったかを討議した上で、利用者の思いを確認する。	一部GW
5	5月17日(木)	実践者は何を思い、何をしているのか	複数の先輩看護職から看護体験を聞き、実践者が何を考えているのかを読み取り、短いレポートを書く。	30分レポート
6	5月24日(木)	看護実践の成り立ち	看護実践の構成要素を理解する。 ・人間対人間の間で成り立つ ・人間関係が影響する ・状況判断と技術の選択・行使 ・もたらす変化	
7	5月31日(木)	看護がもたらすもの	ケアの先に、看護の受け手と看護職が得られるものは何かを理解する。	
8	6月9日(土)	看護技術の開発と効果の検証	看護技術の科学的根拠について理解する。	
9	6月14日(木)	看護職の定義等について	世界における保健、看護職の団体(WHO、ICN、ICM)を理解し、各自のかかわりを考える。 日本の看護職に関する法:保健師助産師看護師法について知る。	
10	6月21日(木)	看護教育システムと生涯学習	日本の看護教育制度と生涯学習の方法を理解し、自分の置かれた立場の意味を考える。	
11	6月28日(木)	看護職の専門分化	専門分化した看護職(CNS、保健師、助産師等)の看護体験を聞き、看護の将来の在り方を考え、短いレポートを書く。	30分レポート
12	7月5日(木)	多様な病態・価値観と看護倫理(1)	保健医療現場における、さまざまな人々のさまざまな価値観を調整するための、基本となる考え方を学ぶ。	
13	7月12日(木)	多様な病態・価値観と看護倫理(2)	価値観のぶつかりから生じる倫理的課題に、どう向き合い、決断していくかを、事例を用いて考える。	GW
14	7月19日(木)	看護研究の面白み	看護学の研究の現状を理解し、看護研究と看護実践のつながりを考える。	
15	7月26日(木)	試験	看護・看護学へ取り組む方向性を述べられる。	

専門科目 看護の基本

科目名	1年生、学士16回生 前期	必修	2単位
<p><u>People-Centered Care</u> 概論</p>	<p>担当教員</p>	<p>*大橋久美子、 菱沼 典子、佐居 由美、 大久保暢子、伊東美奈子、 蜂ヶ崎令子</p>	
<p>目 的</p>			
<p>看護は人間の健康に焦点を当て、生活を営む個人・家族・集団・社会に属する人間とそれらを取り巻く環境に働きかけながら、その人にとっての最適な健康状態をめざし、生活の質を高める活動である。本学は看護と人間のパートナーシップを基に市民主導型の健康生成をめざす People-Centered Care (以下、PCC) を推進している。</p> <p>本科目ではPCCを実践する上で必要となる基本的な概念を学び、看護学生(将来の看護専門職)としてこれからPCCを実践していくための基礎力を養う。</p>			
<p>目 標</p>			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学の主要な概念である「生活」と「健康」を自らの実生活を通して捉え、その関連を考えながら日常生活行動を科学することを楽しむ。 2. 看護の対象となる People の生活と健康について、当事者の立場から考える。 3. PCC の実践例を通して、市民主導型の健康生成(人間の生活と健康を守り高めていくこと)について考える。 4. 「生活」「健康」とは何か、生活と健康の関連、健康生成のあり方について、自分の言葉で説明できる。 			
<p>方 法</p>			
<p>講義に加えて、自分(達)や家族の実生活を素材としたグループワークと患者や市民や看護職等の談話を通して、現実に着目して学生自らが考えて学ぶ方法を用いる。</p>			
<p>内 容</p>			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義：本学の看護の枠組み、「生活」と「健康」に関連する概念とその動向、PCC。 2. 課題1・2：自分の生活と健康を考える。 自分(達)や家族の「生活」と「健康」とその関連について、事前課題をもとにグループワークを行い、理解を深める。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 自分と家族(他の年代の人)の起床から就寝までの生活行動を調査・記録する。自分達と家族の生活行動を比較し、共通性・多様性を理由と共に考える(課題1)。 2) 自分の生活行動(食事、排泄、活動、睡眠等)を詳細に調査・記録し、さらに健康の指標(BMI、骨密度、基礎代謝量、QOL)を測定し、評価する。自分の生活と健康、その関連、PCCの視点からの自分の健康生成のあり方、を考える。レポート提出(課題2)。 3. 課題3：看護の対象となる人間の生活と健康を考える。 看護の対象となる People の「生活」と「健康」とその取り組みを知り、PCCの視点から市民主導型の健康生成のあり方について考える。1) 闘病記を読む。2) 病気の体験を聴く。3) 市民の体験を聴く。4) 看護職のPCCの実践例を聴く。1)～4)を通してレポート提出(課題3)。 			
<p>評価方法</p>			
<p>レポート：70% 参加態度：30%(授業・グループワーク・談話への参加状況、課題の提出状況)</p>			
<p>教科書：指定なし。</p>			
<p>参考書：随時紹介する。</p>			

	日 程	講 義 内 容	備 考
1	4月 9日(月)	オリエンテーション ・大学生活に向けて ・聖路加看護大学の看護の枠組みと PCC について	大橋 学生便覧持参
2	4月 16日(月)	人間の生活と環境 ・課題1の説明(自分と家族の生活)	大橋
3	4月 23日(月)	ミニグループワーク ～課題1「自分達と家族(他の年代の人)の生活」を考える～	大橋
4	4月 25日(水)	健康 健康生成	大橋 *コミュニケーション実習の 枠(1限目)
5	5月 7日(月)	生活の質(QOL) 生活と健康をはかる指標 ・課題2の説明(自分の生活と健康)	大橋
6	5月 14日(月)	People-Centered Care (PCC)について	菱沼
7	5月 21日(月)	People から学ぶ PCC ・課題3の説明(看護の対象となる人間の生活と健康)	大橋
8	5月 23日(水)	骨密度測定1/自己学習(課題2、課題3)	大橋、他 るかなび *コミュニケーション実習の 枠(1限目)
9	5月 28日(月)	骨密度測定2/自己学習(課題2、課題3)	大橋、他 るかなび
10	6月 4日(月)	骨密度測定3/自己学習(課題2、課題3)	大橋、他 るかなび
11	6月 11日(月)	グループワークと発表 ～課題2「自分達の生活と健康」を考える～ *闘病記レポート提出	大橋、他
12	6月 25日(月)	病気の体験を聴く *課題2レポート提出	大橋、他
13	7月 2日(月)	市民の体験と取り組みを聴く	大橋、他
14	7月 9日(月)	看護職の PCC に関する活動を聴く まとめ	山田(看護実践開発 研究センター長) 大橋
15	7月 14日(土)	自己学習(課題3) *7/17(火)課題3レポート提出	補講日

※日程は変更する場合がある。

専門科目 看護の基本

科目名	2年生、学士16回生 前期	必修	2単位
<u>看護展開論</u>	*伊東美奈子(4階11研究室) 佐居由美 大久保暢子 大橋久美子 蜂ヶ崎令子 堀 成美 中村綾子 担当教員 倉岡由美子		
目的	看護は、人間の健康に焦点を当て、その人とその環境に働きかけ、最適な健康状態を生み出すように援助する働きである。本科目では、People-Centered-Careにおける看護と人間のパートナーシップに欠かせないケアリング、クリティカル・シンキング、看護過程、教育的アプローチについて理解することを目的としている。		
目標	1. ケアリングおよび専門的援助関係について説明できる。 2. 看護において何故クリティカルシンキングが必要であるか説明できる。 3. 看護の系統的思考プロセスである看護過程の必要性が理解できる。 4. 看護過程の各段階が説明できる。 5. 看護における教育的機能の意味および必要性を説明できる。 6. 看護における教育的機能を果たすために必要な諸理論の概要を述べることができる。		
方法	グループワーク、個人ワーク、プレゼンテーションなどを多用し、受動的に聴く講義から、より良い理解を目指して共に考え、意見を交換する機会を持ち学習を深める。積極的な参加、グループへの貢献を期待する。		
内容	看護を必要とする人々(個・家族・集団)の状況や問題を把握し、個別性のある看護を展開するためのプロセスにおいて必要な基本的考え方や方法(ケアリング、クリティカルシンキング、看護過程)を学ぶ。また、対象者が自ら行動変容に取り組めるよう、教授-学習過程に基づく方法や、各種理論を学び、看護の教育的アプローチ・教育的機能について理解を深める。それらを通じて看護実践における専門職者としてのあり方、態度を養う。		
評価方法	筆記試験 (50%) 授業やグループワークへの参加状況・提出物 (50%)		
教科書	なし		
参考書	随時紹介する。		

*下記のスケジュール(講義内容、日程等)は変更される場合があります

	日程	講義内容	備考
1	4月10日(火)	オリエンテーション ケアリングおよび専門的援助関係 (講義)	
2	4月12日(木)	クリティカルシンキング (講義)	
3	4月17日(火)	クリティカルシンキング (講義)	
4	4月19日(木)	系統的思考のプロセス-看護過程 (講義)	
5	4月24日(火)	系統的思考のプロセス-看護過程 (グループワーク)	
6	4月26日(木)	系統的思考のプロセス-看護過程 (講義)	
7	5月8日(火)	系統的思考のプロセス-看護過程 (グループワーク)	
8	5月10日(木)	系統的思考のプロセス-看護過程 (グループワーク)	

9	5月15日(火)	系統的思考のプロセス—看護過程	(発表)	
10	5月17日(木)	系統的思考のプロセス—看護過程	(講義)	
11	5月22日(火)	系統的思考のプロセス—看護過程	(グループワーク)	
12	5月24日(木)	系統的思考のプロセス—看護過程	(発表)	
13	5月29日(火)	看護の教育的アプローチ・教育的機能	(講義)	堀
14	5月31日(木)	看護の教育的アプローチ・教育的機能	(講義)	堀
15	6月5日(火)	クリティカルシンキング	(グループワーク)	
16	6月12日(火)	クリティカルシンキング	(発表&グループワーク)	
17	6月14日(木)	クリティカルシンキング	(発表)	
18	6月19日(火)	系統的思考のプロセス—看護過程	(講義)	
19	6月21日(木)	系統的思考のプロセス—看護過程	(個人ワーク)	
20	6月26日(火)	系統的思考のプロセス—看護過程	(個人ワーク)	
21	6月28日(木)	系統的思考のプロセス—看護過程	(個人ワーク)	
22	7月3日(火)	系統的思考のプロセス—看護過程	(個人ワーク)	
23	7月26日(木)	筆記試験		

専門科目 看護の基本

科目名	1 年生, 学士 16 回生	後期	必修	2単位
ヘルスアセスメント方法論				
			*蜂ヶ崎令子 大久保暢子, 佐居由美 伊東美奈子, 大橋久美子	
	担当教員			
I. 目的				
1. 看護の対象となる人間を理解するために必要な技法の1つであるヘルスアセスメントの意義と重要性を理解する。				
2. 看護の対象となる人間の身体的側面をアセスメントするために必要な知識・技術・態度を修得する。				
II. 目標				
1. ヘルスアセスメントの意義と重要性について, 自らの言葉で説明できる。				
2. 講義で学んだフィジカルアセスメントに必要な知識について説明できる。				
3. 指定したフィジカルイグザミネーション項目を時間内に実施できる。				
4. 看護者としてふさわしい態度で対象者に配慮できる。				
III. 方法				
1. 本科目の基盤となる「形態機能学」・「形態機能学演習」との連携を図り, 「食べる」や「動く」などの日常生活行動を単元として講義・演習を行う。適宜, 事例を用いながら身体的アセスメントへの理解を深めていく。				
2. 演習では, 学生同士がペアを組み, グループ担当教員とともにフィジカルイグザミネーションを行なう。				
3. 演習記録は次の講義あるいは演習開始前に集める。提出の遅れたものは受け取らず減点の対象となる。				
■ 授業時間外学習				
1. 講義には, 教科書の関連する部分を読んだ上で出席すること。				
2. デモンストレーションや視聴覚教材で学習した技術は, VTR 等を活用し, 演習前までに自主的に練習すること。				
■ 教科書				
横山美樹, 石川ふみよ(2008). ヘルスアセスメント. スーベルヒロカワ.				
阿曾洋子, 井上智子, 氏家幸子(2011). 基礎看護技術 第7版. 医学書院.				
聖路加看護大学形態機能学演習・ヘルスアセスメント方法論の手引き				
■ 参考書				
菱沼典子(2006). 看護形態機能学 第3版. 日本看護協会出版会.				
W. Platzer, H. Fritsch, W. Kühnel, W. Kahle, M. Frotscher (2009). 分冊解剖学アトラス第6版, I 運動器, II 内臓, III 神経系と感覚器. 平田幸男訳(2011). 文光堂.				
藤崎郁(2007). フィジカルアセスメント完全ガイド. 学研.				
横山美樹(2009). はじめてのフィジカルアセスメント. メヂカルフレンド社.				
Jarvis.C(2009). Physical Examination & Health Assessment 6th Ed.. ELSEVIER.				
その他, 授業内で随時提示する				
IV. 評価方法				
筆記試験 (40%), 実技試験 (30%), 演習※ (30%)				
※服装・髪型・爪などの身だしなみ, 言葉遣い, 対象者への配慮や振る舞い, 演習への取り組み姿勢, 演習記録の提出状況など				

	日程	内容	備考
1	9月28日(金)	講義：ヘルスアセスメントとは	
2		講義：「生きていること」のアセスメント	
3	10月5日(金)	講義：「生きていること」のアセスメント	
4		講義：「恒常性維持のための流通機構」 心臓・末梢血管系のアセスメント	
5	10月12日(金)	演習1 「生きていること」のアセスメント	
6		バイタルサインズ測定（体温・呼吸・脈拍・血圧）	
7	10月19日(金)	演習2 「恒常性維持のための流通機構」	演習1 記録提出
8		心臓・末梢血管系のアセスメント	
9	10月26日(金)	講義：「息をする」鼻・咽頭・胸部・肺のアセスメント	演習2 記録提出
10		呼吸状態を反映する爪・皮膚のアセスメント	
11	10月27日(土)	講義：「食べる」口・咽頭・腹部・消化器系のアセスメント	
12		「内部環境の恒常性」栄養状態のアセスメント	
13	11月9日(金)	演習3 「息をする」鼻・咽頭・胸部・肺のアセスメント	
14		呼吸状態を反映する爪・皮膚のアセスメント	
15	11月16日(金)	演習4 「食べる」口・咽頭・腹部・消化器系のアセスメント	演習3 記録提出
16		「内部環境の恒常性」栄養状態のアセスメント	
17	11月24日(土)	講義：「動く」筋骨格系のアセスメント	演習4 記録提出
18		「動く」に必要な神経系のアセスメント	
19	11月30日(金)	講義：「見る・聞く・話す」に必要な神経系のアセスメント	
20		頭部・顔面・頸部のアセスメント	
21	12月3日(月) 1,2限	演習5 「動く」筋骨格系のアセスメント	
22		「動く」に必要な神経系のアセスメント	
23	12月10日(月) 1,2限	演習6 「見る・聞く・話す」に必要な神経系のアセスメント	演習5 記録提出
24		頭部・顔面・頸部のアセスメント	
25	12月15日(土)	筆記試験：形態機能学演習（4限）	演習6 記録提出
26		講義：「子どもを生む」乳房・生殖器のアセスメント（5限） 「トイレに行く」直腸・肛門のアセスメント	
27	1月11日(金)	試験	
28			
29	1月18日(金)	試験	
30			

※曜日、時間の変更があるので十分注意すること

専門科目 看護の基本

科目名	2年生	前期 後期	必修	3単位
<u>基礎看護技術論</u>		*佐居 由美、大久保暢子、 長松 康子、伊東美奈子 堀 成美、蜂ヶ崎令子 大橋久美子		他
	担当教員			
<p>【目的】看護の対象に、各個人の最適健康状態を生み出せるように援助するため、日常生活行動および診療における援助に必要な看護の基礎的知識・技術を習得する。</p> <p>【目標】日常生活行動の援助についての基本的知識を得る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 診療における援助についての基本的知識を得る ・ 日常生活行動の援助に必要な看護技術を習得する ・ 診療における援助に必要な看護技術を習得する ・ 看護の対象の個別性に合わせた看護技術活用の必要性を理解する <p>【方法】講義、演習、自己学習 演習方法：演習項目にある看護技術を、演習時間内に実施する。 演習実施は、事前の自己学習（指定の提出物の提出含む）が前提となる。 学生各自の習得状況に応じて実施回数が複数回となる場合もある（再演習*）。 *再演習者数により再演習日が追加になる場合もある。</p> <p>【内容】1. 看護援助技術における基本、2. 日常生活行動の援助技術 3. 診療にかかわる援助技術</p> <p>【評価方法】試験 50 %（前期 25%、後期 25%）、演習 40 %、出席遅刻状況 10 % ※スケジュール（講義内容、演習日程等）は変更される場合があります。 （変更スケジュールは履修者に配布いたします）</p> <p>教科書：氏家幸子:基礎看護技術, 第7版, 医学書院, 2011 参考書：後日提示</p>				

	日程	講義内容	備考
1	4月13日(金)	講義：安全・安楽、ボディメカニクス	
2	13日(金)	講義：感染管理	
3	20日(金)	講義：日常生活リズム（活動と睡眠）	
4	20日(金)	講義：体温調整・呼吸	
5	27日(金)	講義：身体の清潔	
6	27日(金)	講義：身体の清潔	
7	5月11日(金)	講義：水と電解質 演習①手順提出；ベッドメイキング、全身清拭、体位変換・車椅子移動	
8	11日(金)	講義：栄養と食事	
9	18日(金)	講義：排泄	
10	18日(金)	講義：排泄	
11	25日(金)	演習②手順提出：浣腸、導尿、吸引 演習①手順返却；ベッドメイキング、全身清拭、体位変換・車椅子移動	
12	25日(金)	演習①についての質疑応答（実習室）	
13	6月1日(金)	演習：全身清拭・寝衣交換、就床患者のベッドメイキング、体位変換・車椅子移動、他	
14	1日(金)	演習：全身清拭・寝衣交換、就床患者のベッドメイキング、体位変換・車椅子移動、他	

15	6月8日(金)	演習②手順返却：浣腸、導尿、吸引 自己学習演習記録提出：食事介助、体位保持	
16	8日(金)	演習②についての質疑応答(実習室)	
17	15日(金)	演習：全身清拭・寝衣交換、ベッドメイキング、体位変換・車椅子移動、他	
18	15日(金)	演習：全身清拭・寝衣交換、ベッドメイキング、体位変換・車椅子移動、他	
19	22日(金)	演習：全身清拭・寝衣交換、ベッドメイキング、体位変換・車椅子移動、他	
20	22日(金)	演習：全身清拭・寝衣交換、ベッドメイキング、体位変換・車椅子移動、他	
21	29日(金)	演習：陰部洗浄	
22	29日(金)	演習：陰部洗浄	
23	7月6日(金)	演習：浣腸、導尿、吸引	
24	6日(金)	演習：浣腸、導尿、吸引	
25	13日(金)	演習：浣腸、導尿、吸引	
26	13日(金)	演習：浣腸、導尿、吸引	
27	20日(金)	演習：浣腸、導尿、吸引	
28	20日(金)	演習：浣腸、導尿、吸引	
29	27日(金)	筆記試験	
30	27日(金)	再演習(該当者のみ) ※別日程が追加される場合あり	
31	9月25日(火)	講義：検査	
32	10月2日(火)	講義：与薬	
33	9日(火)	講義：与薬	
34	16日(火)	演習③手順提出：注射、採血	
35	23日(火)	採血手順確認日に振替(日程後日提示)	
36	30日(火)	演習③手順返却。演習③についての質疑応答(実習室)	
37	11月6日(火)	演習：注射(筋肉注射 or 皮下注射、静脈内注射の管理)	
38	13日(火)	演習：注射(筋肉注射 or 皮下注射、静脈内注射の管理)	
39	20日(火)	演習：注射(筋肉注射 or 皮下注射、静脈内注射の管理)	
40	27日(火)	演習：注射(筋肉注射 or 皮下注射、静脈内注射の管理)	
41	12月4日(火)	休講(補講日後日提示)	
42	11日(火)	演習：注射(筋肉注射 or 皮下注射、静脈内注射の管理)	
43	18日(火)	採血	
44	1月8日(火)	採血	
45	15日(火)	筆記試験	
	日程未定	再演習(該当者のみ)	

専門科目 看護の基本

科目名	学士 15 回生、前期	必修	2単位
<u>看護提供システム I</u>			
担当教員 *倉岡有美子,中村綾子			
<p>目的：看護を必要としている人々に対して看護を提供するためにどのような仕組みがあり、どのような人が関わっているかを学習する。 マネジメントの基礎理論を学習する。</p> <p>目標：1.看護提供システムに関連する基礎理論を理解できる。 2.看護提供システムに影響する要因について考えることができる。 3.質の高い看護を提供するためのシステムについて考えることができる。</p> <p>方法：講義形式で授業を進める。病院の供給部門の見学を実施する。</p> <p>内容：看護を提供するための組織化,医療制度と法律,看護実践の組織化と運営 組織化における資源管理,看護の実践環境,看護実践の質保証,継続教育,災害看護</p> <p>評価方法：1.筆記試験(80%) 2.授業への積極的参加(10%) 3.病院見学レポート(10%)</p> <p>教科書：特に指定しない。</p> <p>参考書：授業の進行に合わせその都度提示する。</p>			

	日程	内容	備考
1	4月13日(金)	オリエンテーション I.看護を提供するための組織化 ① システム理論	
2	4月20日(金)	I.看護を提供するための組織化 ② チーム医療と協働-地域連携病院・訪問看護・介護施設の看護管理	
3	4月27日(金)	II.医療制度と法律 診療報酬制度,介護報酬制度,医療法,保健師助産師看護師法	
4	5月11日(金)	III.看護実践の組織化と運営 ① 組織論,組織文化,看護提供方式	
5	5月18日(金)	III.看護実践の組織化と運営 ② リーダーシップとマネジメント(組織変革,組織改革)	
6	5月25日(金)	IV.看護提供の組織化における資源管理 人員配置と人事管理,物品管理,コスト管理,情報管理	
7	6月1日(金)	V.看護の実践環境 ① 医療安全	
8	6月8日(金)	V.看護の実践環境 ② 労働科学と交代制勤務	
9	6月15日(金)	聖路加国際病院供給部門見学①	
10	6月22日(金)	聖路加国際病院供給部門見学②	
11	6月29日(金)	VI.看護実践の質保証 サービスマネジメント,TQM,患者満足,第三者評価,倫理的課題	
12	7月6日(金)	VII.継続教育 職能団体における教育,資格認定制度,看護管理学研究の動向	
13	7月13日(金)	VIII.災害看護	
14	7月20日(金)	ディスカッション	
15	7月27日(金)	筆記試験	

専門科目 看護の基本

科目名	4年生、学士14回生 前期	選択	1単位
<u>看護提供システムⅡ</u>			
担当教員 *中村綾子,倉岡有美子他			
<p>目的：看護提供システムⅠで学習した内容を基盤として特定のテーマを取り上げ、看護提供システムにおける現状と課題について理解を深めるとともに、その課題の解決に向けた展望をもつことができる。本年度は、災害看護をテーマとする。</p> <p>目標：1.討議や文献検討を通じて、災害時の看護提供システムの現状を知ることができる。 2.1より、災害看護提供システムにおける課題を考えることができる。 3.2より、災害看護提供システム上の課題の解決方法について検討できる。</p> <p>方法：災害看護の文献等を教材としてその内容に基づき討議する。 災害看護に関連する団体や施設を訪問し災害看護の提供システムにおける現状や課題に関する知見を得る。(見学先は学生の関心に応じて設定する) 災害看護の管理上の課題を見つけ文献検討を行なう。</p> <p>内容：グループワーク,討議,文献検討,見学等</p> <p>評価方法：出席(30%),授業への参加状況(30%),文献検討発表内容(30%),レポート(10%)</p> <p>教科書：特に指定しない</p> <p>参考書：南裕子,山本あい子(2007).災害看護学習テキスト概論編.日本看護協会出版会. 村上春樹(1997).アンダーグラウンド.講談社.</p>			

	日程	講義内容	備考
1	4月13日(金)	オリエンテーション・災害看護概説①	中村綾子
2	4月13日(金)	災害看護概説②	中村綾子
3	4月20日(金)	災害支援を担う看護師の養成と派遣システム	中村綾子
4	4月20日(金)	災害発生から初動において求められる看護(トリアージ)	宇都宮明美
5	4月27日(金)	中長期的に求められる看護(精神看護)	大橋明子
6	4月27日(金)	女性に求められる看護	五十嵐ゆかり
7	5月11日(金)	自然災害(生物学系…新型インフルエンザ)と看護	倉岡有美子
8	5月11日(金)	人為災害(複合災害…地下鉄サリン事件)と看護	井部俊子
9	5月18日(金)	災害看護支援機構の活動(国内外での災害看護)	山崎達枝
10	5月18日(金)	災害看護に関する文献検討ならびに施設見学準備	中村綾子 倉岡有美子
11	5月25日(金)	施設見学(国立災害医療センター予定)	
12	5月25日(金)	施設見学(国立災害医療センター予定)	
13	6月1日(金)	見学報告会	
14	6月1日(金)	文献検討発表会	

*履修生と相談の上、内容や日程を変更する可能性がある。

専門科目 看護の基本

科目名	4年生、学士14回生 前期	選択	1単位
<u>看護技術論</u>			
担当教員 *菱沼 典子 他			
目的	看護実践における看護技術の意味づけを問い、自分で看護技術を選択し、適用の仕方を考える基準を形成する。		
目標	1. 専門職として提供する看護技術に責任をもつために、どういう視点から看護技術をとらえればよいのかを学ぶ。 2. 文献の選び方、読み方、プレゼンテーションの仕方を身に付ける。		
方法	授業は講義ならびに文献のプレゼンテーションと討論によって進める。		
内容	各自の興味あるテーマに関して論文を選択し、文献カードを作り、発表する。 取り上げた技術や文献を以下の点から討議する。 ・看護技術の目的、作用機序、臨床効果 ・論文の目的、方法、結果、考察の妥当性、論理性		
評価方法	討議への参加状況 35% レポート①文献カード(文献紹介の明快さを含む) 35% ②最終レポート 課題:この授業でなにを学べたか 30%		
注:受講者との相談で予定は変更することがある。 科目等履修生が履修することがある。			
教科書:なし			
参考書:菱沼典子(2009). 研究による経験知の実証一筋が通った看護技術を確立するために. 日本看護技術学会誌, 8(3), 4-9. 菱沼典子、井上智子、武田利明編(2009). 看護の原理ーケアすることの本質と魅力ー. ライフサポート社 菱沼典子、小松浩子編(2007). 看護実践の根拠を問う. 南江堂. 菱沼典子(2003). 研究による実証が、説明できる看護を築く. 日本看護科学会誌, 23(1), 67-73. 川口泰孝, 根本清次(1994). 技術学としての看護学の立脚に向けて. 兵庫県立看護大学紀要, 1, 27-34. 日本看護技術学会監修(2011). 看護技術の探求. 看護の科学社			

	日程	講義内容	備考
1	4月13日(金)	オリエンテーション 雑誌・文献の種類と読み方について	講義
2	4月20日(金)	看護技術のとらえ方と看護技術研究	講義
3	4月27日(金)	看護技術に関する研究論文を探す・読む	自己学習
4	5月11日(金)	看護技術に関する研究論文の抄読1	発表と討議
5	5月18日(金)	看護技術に関する研究論文の抄読2	発表と討議
6	5月25日(金)	看護技術に関する研究論文の抄読3	発表と討議
7	6月1日(金)	看護技術に関する研究論文の抄読4	発表と討議